

国際化・グローバル化に対応した郷土教育について

基本的な考え方

地域を愛し、地域の担い手となる人材を育成する一方で、国際化・グローバル化や高度情報化社会の進展に対応できる人材育成を目指し、英語コミュニケーション能力や情報活用能力の育成等を図る。

(取組の現状等について)

- 市町教育委員会や大学と連携した、外国の姉妹都市の学校との交流
- 国際教育（国際理解教育）の一環として、異文化について学び、自国の文化を発信する取組
＜具体例＞

- ・外国語活動の時間の発展として、パソコンソフトを用いて、ALTの支援を得ながら、日本の文化やスポーツ等を英語で紹介するビデオレターを作成し、外国の児童生徒に送ったり、情報機器を活用して、相手（外国の児童生徒）の姿を見ながら、英語でコミュニケーションしたりする活動。
- ・高等学校において、外国の学校と姉妹校提携を結び、国際教育（国際理解教育）の一環として、各国の文化について学んだり、自国の文化を発信したりする取組。

(今後考えられる取組展開について)

- ◇ 外国語（英語）の授業、英語や国際交流に関わる部活動等における下記の活動
 - ① ALTや留学生に地域について英語で紹介する活動
 - ② 地元の観光地等について紹介するウェブページの英語版を作成する活動
 - ③ 外国の生徒と英語でEメールを交換する過程で郷土について英語で発信する活動

など